

グローバルハイスクール

テーマ：吉高 Spirit を持って未来を切り拓くための5つの力の育成～グローバルに生きる人間性を高める、グローバルな活動の構築～
(学校名) 県立吉原高等学校



1 グローバル教育の概要

国際科を中心としながら異文化体験、異文化理解、国際交流を通じて多様性を身につけるとともに、異文化体験報告会を通じて普通科の生徒へも理解を広げています。また、オンライン交流や台湾姉妹校交流に普通科の生徒が参加し、学校全体へグローバル教育を浸透させています。

2 実施計画と具体的内容

実施計画	具体的内容
海外体験	国際科海外異文化体験
	LORMA ニューヨーク短期留学
	姉妹都市米国カリフォルニア州オーシャンサイド市派遣「富士市少年親善使節団」
	韓国・忠清南道高校生派遣事業
国内（校内）における活動 （国際理解、異文化理解、留学生との交流、語学学習）	台湾姉妹校馬公高級中学との交流 オンライン交流、異文化体験発表会、留学生受入サマーセミナー、サマーイングリッシュキャンプ
	国際理解講座（本校生徒） （静岡大学留学生との交流）
	国際理解公開講座（地域中学生参加）
	フェアトレード講座、浴衣着付け講座、茶道講座
生徒の主体的な活動	外国人生徒学習支援ボランティア

3 各年度における取組

○国際理解公開講座（令和7年10月11日）

「マダガスカルでいろいろなことを考えてみた。」青年海外協力隊員としての活動経験を持つ、中田里穂氏を講師に迎え、マダガスカルの人々の暮らしや文化について楽しく学習した。現地とオンラインでつなぎ、現地の言葉や、生活について、中田氏と交流のある現地の方に直接質問した。また、開発途上国の中にある生活に役立つアイデアってなんだろうかという問いかけから、実際にアボカドオイルを作った。開発途上国であっても、人々が豊かな気持ちで暮らしている様子を知り、生徒は自分たちの今の生活を振り返り、神妙な面持ちで将来について考えていた。今回は近隣の中学生も参加できる公開講座として実施し、本校生徒が中学生と一緒に課題について考えたり、アボカドオイル作りのサポートをした。

↓写真左は中学生



○国際科海外異文化体験（令和7年11月28日～12月7日）

令和7年度もマレーシア・シンガポールにおいて、現地大学生と一緒に小グループでのクアラルンプール探索、学校交流、工場見学等を実施し、現地の人との文化交流を実施。最終日には予定していた飛行機が飛ばずに、予定よりも約8時間遅れて帰校。海外の厳しさを体験した。



○台湾姉妹校馬公高級中学との交流（令和7年12月9日）

今年度は馬公高級中学の生徒が本校を訪れる順番となる。12月9日の午前10時頃に、前日宿泊した御殿場から到着。校内見学、浴衣着付け体験、授業参加、部活動体験に、本校生徒と時間を共に過ごした。歓迎セレモニーでは馬公高級中学の生徒がダンスと歌を披露した。司会の生徒は日本語と中国語を用いて、通訳を介さずに進行した。



4 研究の成果と課題

国際科の2年生は、海外異文化体験帰国直後ということもあり、浴衣着付け体験では積極的に着付けを手伝い、コミュニケーションを図っていた。積極性というところでは、一度経験したかどうかということが大きい。本校で実施する異文化交流、異文化体験や講座が多くの生徒の国際理解への第一歩となり、お互いを知り合い、理解し、お互いを認め合う心の育成にもつながっている。多様な文化背景を持つ人々をつなぐ懸け橋となるために、さらなる内容のブラッシュアップと、限られた人員と予算の中で活動を継続させるための体制づくり、地域や海外の学校、関係機関との関係づくりを強化し、広く校内外での活動を実施していきたい。

グローバルハイスクール

テーマ：グローバルな視野と進取の気性を育み、異文化を理解する心を涵養し、外国人との共生など持続可能な社会に生きる力を身に付け、地域に貢献する人材育成の在り方について探る

静岡県立榛原高等学校



1 グローバル教育の概要

本校では、文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」を令和元年度から3年間、静岡県の「オンリーワン・ハイスクール（グローバル・ハイスクール）」を令和3年度から3年間それぞれ指定を受け、この関連事業を「HAFプロジェクト」(HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT)と名付け、「地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究」という副題をつけて取り組んできた。コロナ禍で中止していたグローバルな研修の再開やより改善・深化したHAFプロジェクトを継続的に推進し、「地域と連携した教育活動を通して、地域についての認識を深め、グローバルな視野を併せ持つ生徒の育成」「地域と連携した教育活動を通して、自ら課題を設定し、他者と協働してよりよい解決に向け主体的に判断し、表現する力を身に付ける生徒の育成」を目指す。

2 実施計画と具体的内容

- 1) 実社会とのつながりを考え、地元企業の地域貢献やグローバル展開を知る（企業訪問）
- 2) グローバルの知識・理解を得て、考察・探究する態度を身に付ける（海外研修、オンライン交流）
- 3) 英語によるコミュニケーション力を育てる（イングリッシュキャンプ・Touch up English、英検取得推進）
- 4) 地域の人と協働、地域貢献する態度の育成（地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市事業）等への参画）
- 5) グローカル部による地域・国際的課題の解決策の探究、実践活動

3 各年度における取組

1) 企業訪問

- (1) 普通科2年選択科目「グローバル探究」の選択生徒（2年生14人）が矢崎総業株式会社 Y-CITY（裾野）を訪問し、企業の地域貢献やグローバル展開について学んだ。
- (2) 海外研修（ベトナム）において、地元企業の海外事業所（矢崎ハイフォンベトナム有限責任会社）を訪問した。（1年生希望者26人参加）

2) 海外研修、オンライン海外交流

(1) 海外研修

「地域経済社会と諸外国が密接に関係していることを理解するとともに、グローバルな視野と国際感覚の醸成を図る。」を目的に昨年度に引き続き海外研修（ベトナム）を実施した。

日程：2025年12月21日（日）～25日（木） 参加者：1年生希望者26人、引率教員3人



12/21(日)	学校出発 12:00、成田国際空港→ノンバイ国際空港	ハノイ市泊
12/22(月)	タンロン遺跡・バッチャン村、旧市街自由研修他	ハノイ市泊
12/23(火)	ホーチミン廟他研修、矢崎ハイフォン・ベトナム有限責任会社訪問	ハロン市泊
12/24(水)	ハロン湾クルーズ、ハノイ旧市街自由研修他	機内泊
12/25(木)	ノンバイ国際空港→成田国際空港、午後学校着	

(2) オンライン交流

- ・グローバル部（最大 33 人）：令和 5 年度から台湾の「国立金門高級中学」とオンライン交流を続けている。2、3 人のグループ対グループまたは 1 対 1 で、英語を使って、複数テーマを設定してディスカッションするなど、今年度は 4 回実施した。
- ・グローバル探究選択生徒（2 年生 14 人）：台湾の「臺南市立永仁高中学」1 年生 13 人と交流した。お互いの国や地域、学校についての紹介、高校で学んでいること、自分が探究していることなどについて英語で紹介した。



3) イングリッシュキャンプ・Touch up English、英検取得促進

夏季休業中に、イングリッシュキャンプ（普通科 1～3 年希望者 28 人）、Touch up English（理数科 2 年 27 人）を行った。ネイティブ教員を講師に、様々なセッションを行った。



4) 地域リーダー育成プロジェクト（牧之原市事業（主催：牧之原市地域振興課、一般社団法人 CLIP））等への参画、グローバル部による地域・国際的課題の解決策の探究、実践活動

例：牧之原市が主催するビジネスコンテストに参加、国内外（インドや韓国）企業が参加する中、本校の参加チームはジュニア大賞を受賞した。

4 研究の成果と課題

- ・夏季休業中の英語研修については、理数科のプログラムを「Touch up English」として刷新し、海外修学旅行を見据えた実践的な発信力の強化を図った。普通科においても、英語でのコミュニケーションスキルを集中的・実践的に学ぶ機会となり、概ね目標を達成することができた。
- ・海外（ベトナム）研修については、2 年目ということもあり昨年度以上に充実した研修となった。研修を通して行う班別探究活動では、単なる調べ学習にとどまらない探究テーマを設定し、実際に各班が調査を行う様子が随所で見られた。また、研修中に生徒が気づきや考えをアプリで随時情報発信し、それらを全員で共有することによって、多様な視点を持つ機会となった。企業訪問や自由研修を通して、自身のキャリア形成や地域貢献の在り方を再考する深い学びにつなげることができた。時期や研修期間の問題点もあるが、生徒・保護者の満足度は高く、学校主催の研修ならではの質の高い体験機会としての価値を再確認した。
- ・事業全般を通じ、異文化理解や共生を単なる「知識」として学ぶだけでなく、「自分たちがこれからの社会をどう作っていくか」という自分事として捉え、自ら行動しようとする姿勢が見られたことは、本事業の大きな成果である。一方で、円安や物価高騰に伴う研修費用等の上昇は深刻な課題として残った。次年度以降、本事業の成果を維持しつつ、経済的負担を軽減するためにプログラムのさらなる効率化など、持続可能な実施形態を検討し続ける必要がある。



グローバルハイスクール

テーマ：内向き志向が強く地域課題に対しては誠実に取り組む本校生徒が、外を向き「グローバルな視野」を身に付けようとするにはどのような働き掛けが有効か。
(静岡県立浜北西高等学校)



1 グローバル教育の概要

本校では「グローバル教育」を「国際理解教育」と言い換え、特色ある教育活動として推進してきた。スクールミッションに「国際理解教育、DX教育、地域連携・協働活動などを取り入れた探究的な活動を通して、グローバルな視野で、将来、地域社会（ローカル）で活躍できる能力と態度を備えた人材の育成を目指す」と謳っているが、内向き志向が強く、「グローバルな視野」の獲得に課題がある。

今回「グローバルハイスクール」に採択されたことを踏まえ、三つの方向から「グローバル教育」の深化を図ることとした。まず、第一の方向は『探究』×『グローバル教育』の視点からの取り組みである。探究学習をより充実させ、「地域課題」をさらに深く掘り下げていけば、自ずから世界が直面する課題に目線が向くはずと考えた。第二に「体験」の視点からの取り組みである。内向き志向の強い生徒たちに、より多くの海外の人との交流「体験」、海外の文化の「体験」をさせることで、生徒の視野を地域だけでなく世界に広げるきっかけになり語学学習の意欲も増すことが期待できると考えた。第三に校内の「環境」づくりの視点からの取り組みである。LL教室を「交流ラボ」に模様替えする中で、Wi-Fi環境を整え、海外の書物、映画のDVDなどを揃え、英語を苦手とする生徒が語学学習に関心を持ち、探究学習で培った知見を海外の生徒とオンラインで意見交換したいという希望者が増加することを期待している。

2 実施計画と具体的内容

(1) 『探究』×『グローバル教育』

①講師招請 ②連携大学（常葉大学）での探究学習発表 ③先進校視察

(2) グローバルな「体験」

①タイ国シリントン高校交流（受け入れ） ②タイ国シリントン高校交流（現地訪問）
③AFS及びアジアの架け橋 留学生受け入れ ④グローバル研修の実施

(3) 「環境」づくり

①「交流ラボ」創設 ②異文化理解の書籍等の充実

3 各年度における取組

【令和6年度】

(1) 『探究』×『グローバル教育』

先進校視察や探究講師招請等を行い、グローバルな視点やテーマで探究に取り組み、令和7年度の方策について検討した。



(2) タイ国シリントン生徒交流（受け入れ）

連携校から11名の生徒の短期留学を受け入れた。コロナ禍以降の久しぶりの海外交流に、多くの生徒が大変良い刺激を受けた。



(3) フィリピン留学生1名 受け入れ

アジアの架け橋事業で訪れた留学生と、授業や行事、部活動を4か月間共に経験することで、海外へ関心を向ける生徒が増加した。



(4) グローバル研修 (バス研修)

生徒 51 名が参加し、静岡県立大学では国際文化学科の学びを、熱海市役所ではインバウンドの取組を視察し、知見を深めた。



(5) 異文化理解の図書コーナー設置

異文化理解の図書を購入し、コーナーを設けた。連携校のシリントン生徒との交流用に、クラスに 1 冊ずつタイ語テキストを購入した。



【令和 7 年度】

(1) タイ研修準備講習会

8 月に 12 名 (生徒 10 名、教員 2 名) がタイ研修を実施する計画の下、タイ語や文化を学ぶ事前講習を全 8 回に渡り実施した。



(2) タイ国とのオンライン交流

8 月のタイ研修が、タイ国境付近での武力衝突により中止となった。12 月実施を計画するも情勢悪化により渡航を断念せざるを得なかったため、オンライン交流を実施した。



(3) 留学生 3 名受け入れ

アイスランド、アメリカ合衆国、インドネシアからの留学生を受け入れた。生徒達は身近に海外を感じ、国際感覚が養われている。



(4) 「交流ラボ」創設

LL 教室を改修し、可変的に使用できるテーブル等を整備した。オンライン交流や国際交流系の活動拠点として、運用を開始した。



before → after

4 研究の成果と課題

【成果】

- (1) 外国や異文化への関心の高まり・・・生徒アンケート (令和 8 年 1 月実施) で、「国際交流活動を通して、外国や異文化へ関心が高まった」と答えた生徒が 77.3% と多くを占めた。
- (2) 留学希望者の増加・・・ふじのくにグローバル人材育成事業 (トビタテ! 留学 JAPAN) に 2 名、韓国・忠清南道高校生派遣事業に 1 名、高校生訪韓団に 8 名がそれぞれ応募し、留学希望者が増加した。
- (3) 学校の魅力化としての位置付け・・・「本校の魅力は何か」(複数回答可) という新入生アンケートにおいて、「国際理解教育」を選んだ生徒が、16.0% (R 6) から 21.0% (R 7) に増加した。

以上の成果から、本研究のテーマである「グローバルな視野」の獲得は達成できたと言える。また、生徒アンケートによれば、有効な働き掛けは、グローバルな体験であることが分かった。

【課題】

「グローバルな視野」の獲得には、研究期間終了後も継続して、グローバルな体験を実施することが重要である。今回、連携校であるタイ国シリントン高校への研修が、国境付近の武力衝突により実現できなかったことは誠に遺憾であるが、来年度以降の実施もまだ不透明な状況にある。グローバルな体験を進める上で、国際情勢の安定は欠かせない課題と痛感している。